

「博士課程修了者の追跡システム・高度人材 データベース構築に向けた基盤整備」プロジェクト

プロジェクト概要 及び 今年度実施する内容

2011年11月4日
株式会社日本総合研究所
文部科学省 科学技術政策研究所

はじめに ～博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベース構築に向けた基盤整備プロジェクトの位置付け（1）～

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

- 平成23年度から文部科学省によって開始された「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」」では、客観的根拠(エビデンス)に基づいた合理的なプロセスによる政策形成を実現するといった社会の要請に答えることを目標としている。（→参考資料参照）
- 「政策のための科学」は、「(1)公募型研究開発プログラム」「(2)基盤的研究・人材育成拠点形成」「(3)政策課題対応型研究」「(4)データ・情報基盤整備」の4種の事業で構成されており、科学技術政策研究所では「(3)政策課題対応型研究」「(4)データ・情報基盤整備」を担当している。
- 「(4)データ・情報基盤整備」の1プロジェクトとして「博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベース構築」があり、新たにシステム・人材データベースの構築を行う。（本年度は、そのための情報収集と基盤整備を行う。）

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

「政策のための科学」推進委員会

文部科学省 政策科学推進室運営（黒田昌裕座長）

「政策のための科学」の全体像、全事業の方向性・進捗を議論

科学技術政策研究所が担当する事業

政策課題対応型調査研究及びデータ・情報基盤整備に関する助言委員会

科学技術政策研究所運営（後藤晃座長）

(1) 公募型研究開発プログラム

(2) 基盤的研究・人材育成拠点

(3) 政策課題対応型研究

(4) データ・情報基盤整備

（1プログラムとして「博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベース構築」）

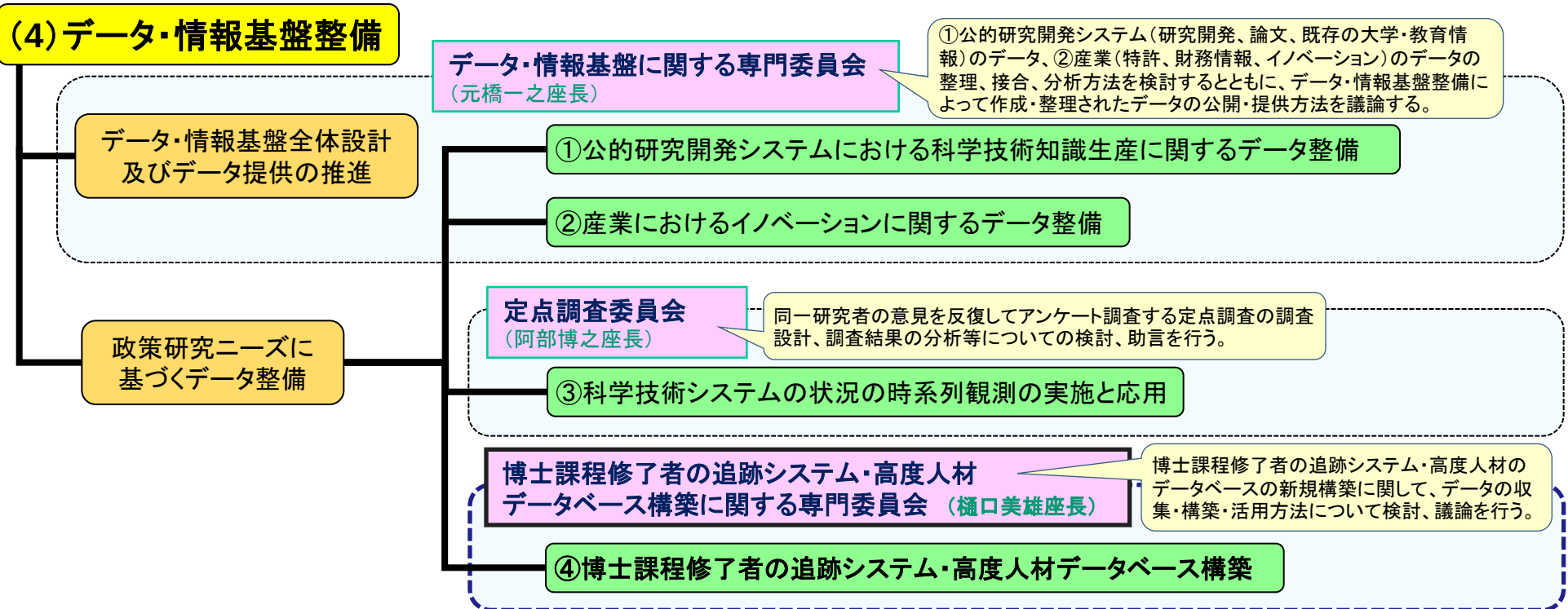
科学技術政策研究所が担当する「政策課題対応型調査研究」と「データ・情報基盤事業」の方向性・進捗を議論

はじめに ～博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベース構築に向けた基盤整備プロジェクトの位置付け（2）～

【データ・情報基盤整備】

- データ情報・基盤整備事業では「①公的研究開発システムにおける科学技術知識生産に関するデータ整備」「②産業におけるイノベーションに関するデータ整備」「③科学技術システムの状況の時系列観測の実施と応用」「④博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベース構築」の4つのプロジェクトを現在、実施している。
- 「④博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベース構築」プロジェクトでは「**博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベース構築に関する専門委員会**」において、博士課程修了者データベースに関するデータの収集・構築・活用方法について検討、議論を行う。

(4) データ・情報基盤整備



本プロジェクトの目的と背景

【プロジェクトの背景と目的】

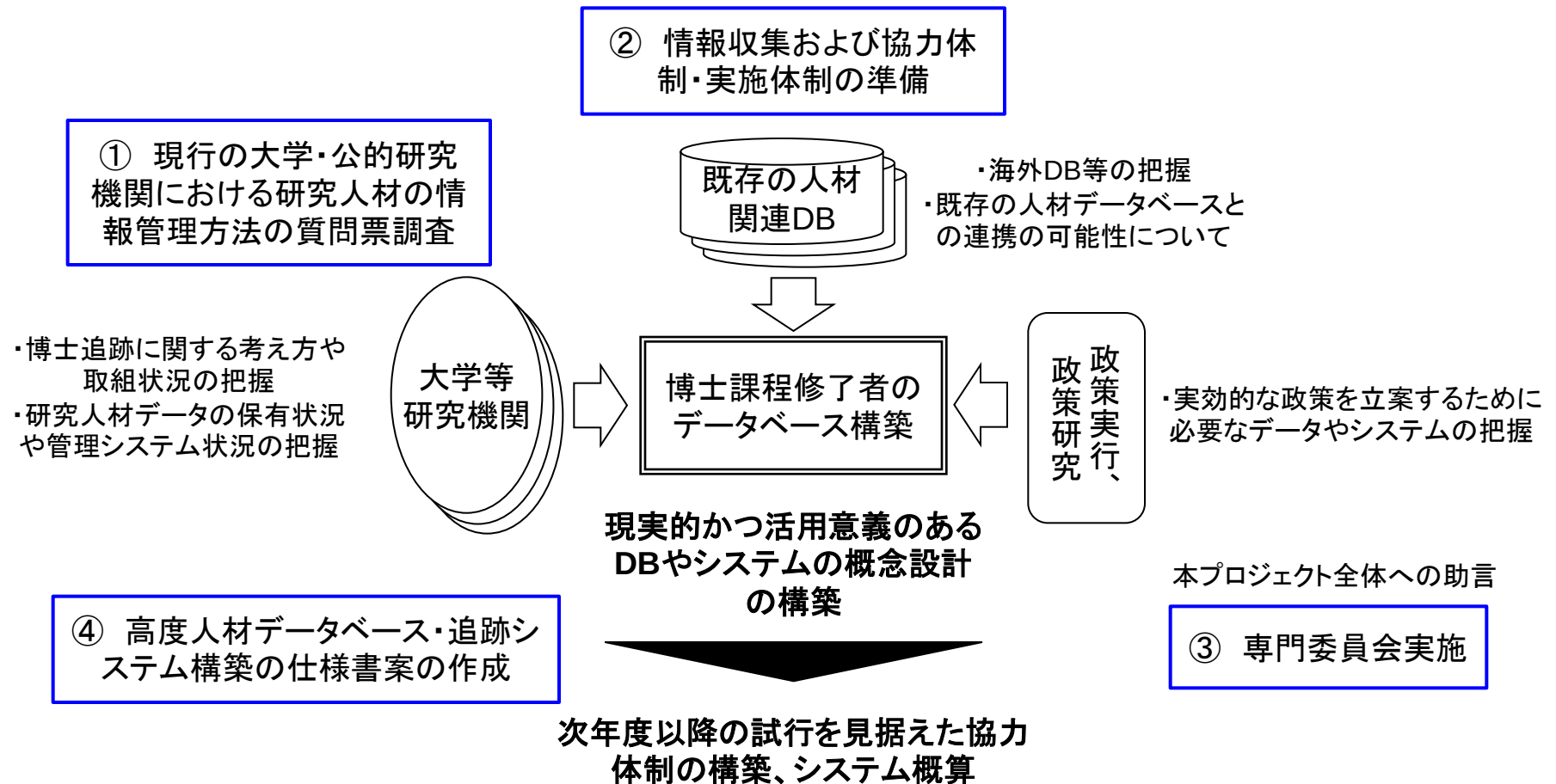
- 我が国の持続的な成長には高度な知識を有する人材の活用は必要不可欠である。中でも、極めて高度なトレーニングを受けた博士課程修了者の様々な場での活躍や彼／彼女らの活用は重要なテーマである。しかしながら、現時点では、博士課程修了者の活躍状況など統計的観点での把握は不十分である。
- OECDではCDH(Career of Doctorate Holders)プロジェクトが実施されており、そこに参加している諸外国と比べると、我が国においては博士課程修了者の追跡システム及びデータ整備が遅れていることが指摘されている。
- 一部の大学や研究科においては、博士課程修了者(だけでなく一般的に学生全般ではあるが)の卒業後の進路や連絡先の把握について積極的に取組を開始しているところもある。
- 本プロジェクトでは、大学・関係機関との協力や他の既存DBとの連携を進めながら、3～5年後の完成を見据え、国が中心となって「博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベース構築」を進めるものである。

【今年度の目的】

- ✓ 我が国における博士課程修了者の追跡システムおよび大学・公的研究機関向けの高度人材データベースを構築するための調査、情報共有、システム構築の総合的な基盤整備を行う。具体的内容は下記のとおり。
 - (1)高度人材データベース・追跡システムを構築するための質問票調査
 - (2)情報収集および協力体制・実施体制の整備
 - (3)専門委員会の設定・運営
 - (4)高度人材データベース・追跡システム構築の仕様書案作成

本年度実施するプロジェクトの全体像

- 本年度実施するプロジェクト内容は、“博士課程修了者の追跡システムおよび大学・公的研究機関向けの高度人材データベースを構築するための調査、有識者によるシステム等の概念設計などの総合的な基盤整備を行う”こと。



実施スケジュール

11月

1月中旬～下旬

3月上旬

① 現行の大学・公的研究機関における研究人材の情報管理方法の質問票調査

調査項目の整理、調査対象者の検討

関係機関へのプレヒアリング

アンケート票作成・発送準備

アンケート実施

督促、回収、エラーチェック

結果分析

② 情報収集および協力体制・実施体制の準備

海外大学データ・博士課程修了者追跡システムの動向調査

国内外既存DBの個人単位データ連結可能性調査

人材関連DBの活用に関する調査

関係機関への説明・ヒアリングによるDB構築に関するニーズ等調査

④ 高度人材データベース・追跡システム構築の仕様書案の作成

概算見積の取得

システム構築仕様書の作成

③ 専門委員会の実施

第1回専門委員会

第2回専門委員会

第3回専門委員会

報告書等とりまとめ

本プロジェクトにおける専門委員会の位置づけ

【専門委員会の位置付け】

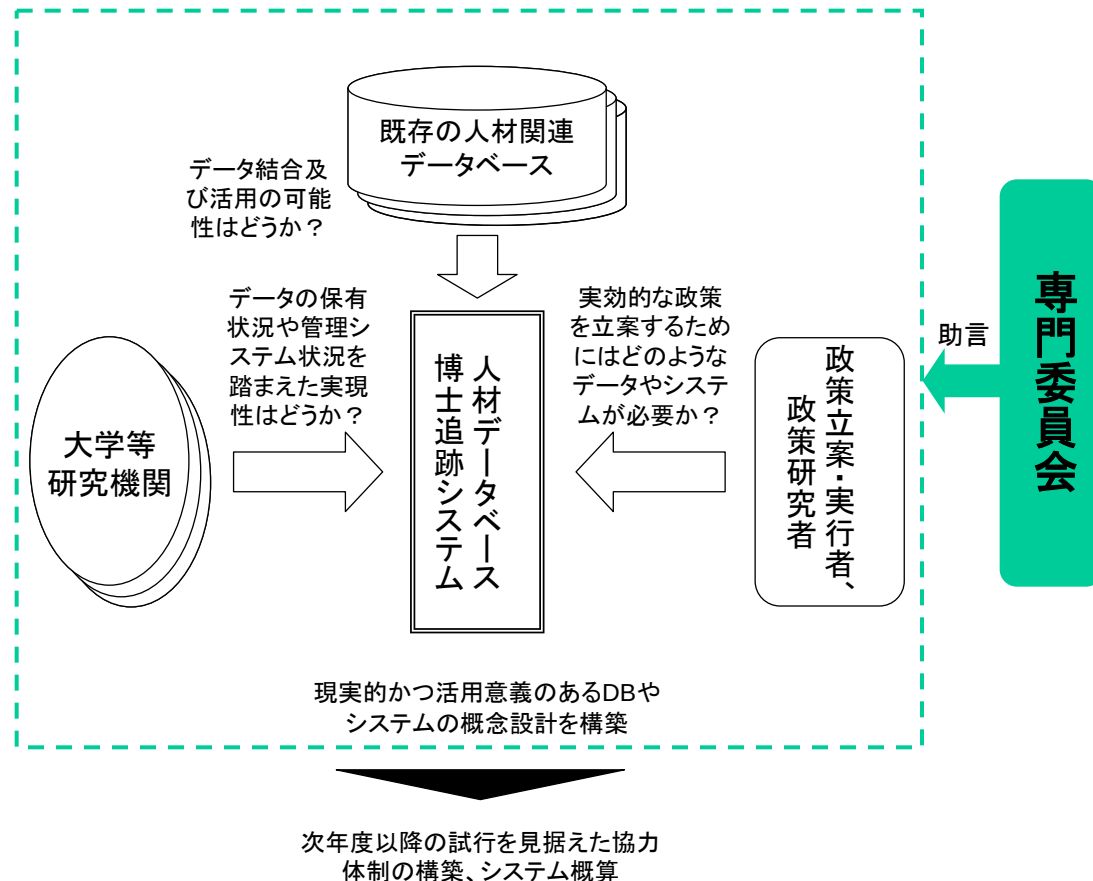
- 本プロジェクトにおいては、博士課程修了者の追跡システム、並びに高度人材データベース構築に向け、事務局にて前記①②の調査を実施する。

①博士課程修了者の追跡システム・高度人材データベースを構築するための機関の情報管理に関するアンケート調査(大学・研究機関対象)

②情報収集および協力体制・実施体制の整備(海外事例調査、関係者ヒアリング)

- 本専門委員会は、上記の検討にあたり、有効性、実現性の高いシステム構築のために、適宜助言をいただく場とする。

(本プロジェクトの概要)



(議論のポイント)

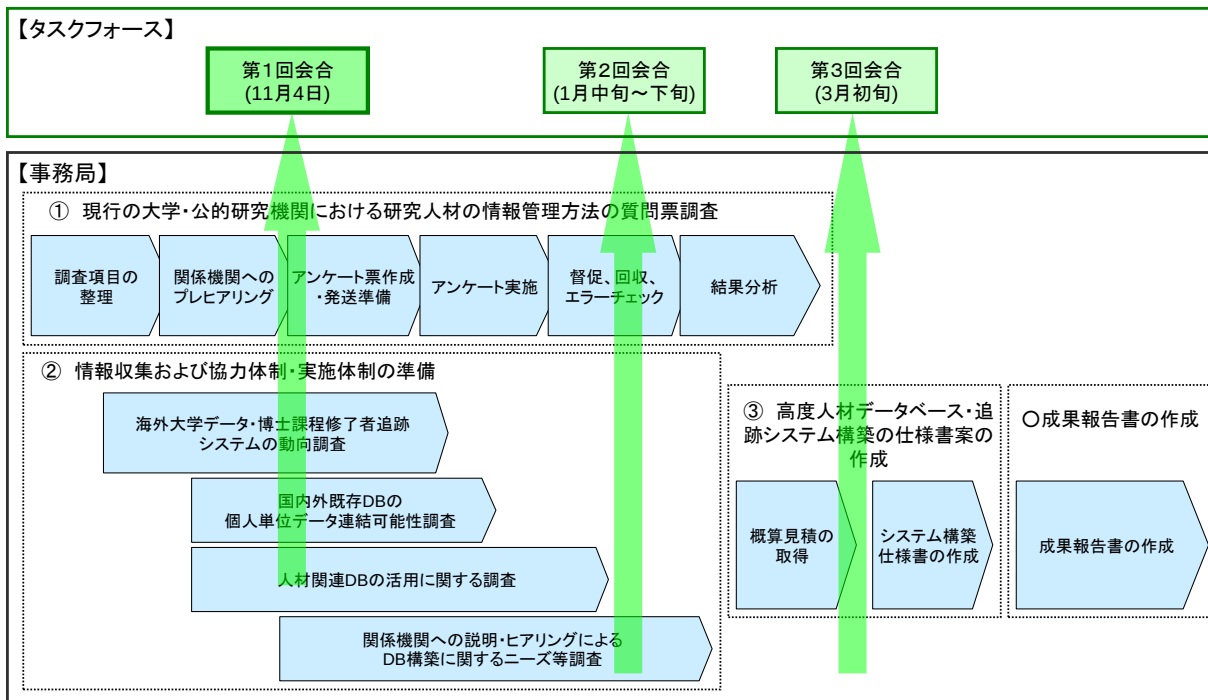
- 当該システム・データベースの目的の明確化
- 政策への活用案
- 各機関・組織の当該データベース活用のメリットの明確化

専門委員会の進め方

【専門委員会の進め方】

● 専門委員会は全3回開催

第1回会合 (平成23年11月4日)	・目指すべき人材DB、追跡システムのあり方、システム構成、データ項目についての大まかな討議(全体) ・高度人材データベース・追跡システムを構築するためのアンケート調査・調査票へのアドバイス(①) ・海外の博士課程修了者追跡システムの動向調査等結果についての中間報告(②)
第2回会合 (平成24年1月初旬～中旬)	・目指すべき人材DB、追跡システムのあり方、システム構成、データ項目についてにより詳細な項目についての討議(全体) ・現行の大学・公的研究機関における研究人材情報管理方法のアンケート途中結果報告(①) ・海外大学データ・博士課程修了者追跡システムの動向調査等の結果報告(②)
第3回会合 (平成24年3月初旬)	・目指すべき人材DB、追跡システムのあり方、システム構成、データ項目の最終討議(全体) ・現行の大学・公的研究機関における研究人材情報管理方法のアンケート最終結果報告(①)



【アンケート調査の目的】

- 大学・公的研究機関を対象としたアンケート調査は、大きく次の2点を目的として実施する。
 - ①追跡システム、高度人材DBの仕組みの検討：
 - ・ 博士課程修了者の追跡システム構築のために、現状の研究人材に関する情報の把握方法・保有状況について実態を把握する。
 - ・ 特に、大学に対しては、博士課程修了者等について、大学修了後ないし離任後のキャリアに関する情報収集(追跡調査)の状況を重点的に調査する。
 - ②構築するシステムやDBの活用メリット設計：
 - ・ 追跡システム及び人材データベース構築にあたり、大学等の研究機関の活用メリットをどのように設計するかを検討するために、研究機関側の意向について把握する。

【アンケート調査について専門委員会にてご助言いただきたい点】

- 第1回:【調査票案のご提示】
 - ⇒アンケートの全体設計(対象等)、調査項目の妥当性
- 第3回:【調査結果のご報告】
 - ⇒実態を踏まえた構築すべきデータベースの項目、対象機関のインセンティブ設計

【海外事例調査の目的】

- 海外の大学に関するデータベース・博士号取得者の追跡システムに関する調査は、大きく次の2点を目的として実施する。
 - ①追跡システムの具体的検討：
 - ・ 博士課程修了者の追跡システム構築のために、海外(米国、英国)における追跡システムの具体的方法について、先進事例として参照する(対象、時期・期間、項目、制度的枠組み、等)。
 - ②データベース活用の方向性検討：
 - ・ 海外における高度人材データベースを用いた、当該国等の政策への活用状況について把握する。
 - ・ また、大学等研究機関の協力体制を築くために、海外の大学におけるデータベース活用状況及びそのメリットについても把握する。

【海外事例調査についてご助言いただきたい点】

- 第1回:【海外事例の概要ご説明】
 - ⇒調査すべきポイント・視点、項目、事例
- 第2回及び第3回:【海外事例の詳細ご提示】
 - ⇒海外事例の日本への応用可能性

【既存データベース調査の目的】

- 国内外の高度人材データベースに関する調査は、大きく次の2点を目的として実施する。
 - ①高度人材データベースの具体的検討：
 - ・ 高度人材データベース構築のために、海外の既存データベースについて、先進事例として参照する(対象、項目、制度的枠組み、政策への活用等)。
 - ・ 国内の既存データベースについては、各々の把握状況や把握率等について整理する。
 - ②データベースの設計準備：
 - ・ 次年度以降、具体的にデータベースを構築するにあたり、上記①を基に、国内における現状の人材データベースや研究成果のデータベースとの連結の可能性等について検討する。

【海外事例調査についてご助言いただきたい点】

- 第1回:【事例の概要ご説明】
 - ⇒調査すべきポイント・視点、項目、事例
- 第2回及び第3回:【事例の詳細ご提示】
 - ⇒海外事例の日本への応用可能性、既存データベースとの連携可能性